

## 口語英語研究 (6) 謝罪の表現に関して

木戸 充\*・Stuart J. SANDERSON\*\*

\*日本獣医生命科学大学 英語学教室

\*\*Sanderson English School

**要約** 本稿は謝罪の意味を含む英語の口語表現についての研究論文である。本稿の主題となる表現は Excuse me./ I'm sorry./ Sorry. と I beg your pardon?/ Pardon?/ Pardon me?/ Excuse me?/ Sorry? である。本稿ではこれらの違いやそれぞれが使われる具体的な状況について論じている。なお、*口語英語研究 (1) (2) (3) (4) (5)* と同様、本稿は英語を母語とする者と日本語を母語とする者の長時間にわたるディスカッションを基にしている<sup>1)</sup>。

**キーワード** : Excuse me./ I'm sorry./ Pardon?

日獣生大研報 63, 89-97, 2014.

### 1. はじめに

相手に対して謝罪の気持ちを表すとき Excuse me./ I'm sorry./ Sorry. が使われることがある。これらはどれも「すみません」や「申し訳ありません」などと訳されるが、英語を母語とする者はこれらをどのように使い分けているのだろうか。

また、相手の言うことが聞き取れなかったとき I beg your pardon?/ Pardon?/ Pardon me?/ Excuse me?/ Sorry? が使われることがある。これらはどれも「もう一度言ってくれませんか」や「何と言ったのですか」などと訳されるが、それぞれにはどのようなニュアンスの違いがあるのだろうか。さらに、英語を母語とする者でも What did you say? や Would you say that again? という表現を使うことがある。これらは「you (あなたは) what (何を) say (言ったのですか)」や「that (それを) again (もう一度) say (言って) would you ~? (くれませんか)」などと訳されるが、英語を母語とする者はこれらと I beg your pardon?/ Pardon?/ Pardon me?/ Excuse me?/ Sorry? をどのように使い分けているのだろうか。

本稿の第2章では Excuse me./ I'm sorry./ Sorry. の基本的なニュアンスの違いを検証する。また、(1) [他人への呼びかけ], (2) [親しい人への呼びかけ], (3) [礼儀としての事前の謝罪], (4) [礼儀としての事後の謝罪], (5) [個人的過失に関する軽い謝罪], (6) [深い謝罪], (7) [丁寧で強い要求], (8) [申し出を断る応答], (9) [同情や悲しみなどの感情表現], (10) [相手への強い非難] という10の観点から Excuse me./ I'm sorry./ Sorry. が使われる

具体的な状況の違いを比較する。

本稿の第3章では I beg your pardon?/ Pardon?/ Pardon me?/ Excuse me?/ Sorry? の基本的なニュアンスの違いを検証する。また、具体的な例を見ながら I beg your pardon?/ Pardon?/ Pardon me?/ Excuse me?/ Sorry? と What did you say?/ Would you say that again? との意味の違いやそれぞれが使われる状況の違いを比較する。

### 2. 「すみません」: Excuse me./ I'm sorry./ Sorry. の比較

Excuse me. には本来「me (私を) excuse (許してください)」という意味がある。これは相手からの許しを求める謝罪のことばであり、自分の内面的な感情を含まない冷静で客観的な響きを持つ。

sorry の原義は「痛む」であり、本来 I'm sorry. には「I (私は) am sorry (心を痛めています)」という意味がある。これは自分の内面的な感情を伝える謝罪のことばであり、Excuse me. にはない主観的で感情的な響きを持つ。

I'm sorry. は正式な表現であり、Sorry. は I'm sorry. の略式表現である。したがって、基本的に I'm sorry. は礼儀正しく謝罪するときに使われ、Sorry. は親しみを込めて(たとえ近い関係にない人に対して使われる場合でも友人や家族に対するときのような親しみを込めて)軽く謝罪するときに使われる。

以上のような Excuse me./ I'm sorry./ Sorry. の基本的なニュアンスの違いを踏まえて、以下では (1) [他人への呼びかけ], (2) [親しい人への呼びかけ], (3) [礼儀と

しての事前の謝罪], (4) [礼儀としての事後の謝罪], (5) [個人的過失に関する軽い謝罪], (6) [深い謝罪], (7) [丁寧で強い要求], (8) [申し出を断る応答], (9) [同情や悲しみなどの感情表現], (10) [相手への強い非難] という観点からそれぞれ用いられる具体的な状況の相違を検証する。

### (1) [他人への呼びかけ]

自分の方から名前のわかっていない他人に質問や要求などを伝えるときには、その相手に呼びかけて相手の意識を自分に向ける必要がある。このとき使われる呼びかけのことばを本稿では [他人への呼びかけ] と呼ぶことにする。

例えば、映画館や劇場などで空席を見つけてそこが空席であるどうかを確かめようとするとき、その周辺にいる人に “Excuse me, is anyone sitting here?” (すみませんが、ここにどなたか座っていますか) などと尋ねることがある。一般に、このような状況では [他人への呼びかけ] として Excuse me. が使われ、I’m sorry. や Sorry が使われることはない。

[ex.1] A と B の街中での会話。A と B は見知らぬ他人同士。A が通りを歩いていた B を呼び止めて、近くにコンビニエンスストアがあるかどうか尋ねている。

A : (1) “Excuse me.”  
「すみません」

B : (2) “Yes.”  
「はい」

A : (3) “I wonder if you know there is a convenience store around here.”  
「近くにコンビニはありませんかね」

B : (4) “Well... Do you see those traffic lights over there? Turn right there and you can see a bus stop on your left. You can't miss it.”  
「ええと、あそこに信号が見えますよね。あそこを右に曲がれば、左側にバス停がありますよ。行けばわかりますよ」

[ex.1] (1) で A は通りすがりの他人である B に “Excuse me.” と声をかけている。[ex.1] (2) で B が “Yes.” と返事をした後で A は “I wonder if you know there is a convenience store around here.” (近くにコンビニはありませんかね) という質問を伝えている。この Excuse me. は名前のわかっていない他人の意識を話し手に向けるために使われている点で [他人への呼びかけ] になる。

この Excuse me. は「すみません」という謝罪の気持ちを表すだけでなく、その後に伝えられる質問や要求などの前置きの役割も果たしている。つまり、[他人への呼びかけ] として Excuse me. を使えば、聞き手は話し手から質問や

要求が伝えられることを予期することになり、それによって話し手の質問や要求が相手に受け入れてもらいやすくなる。

このように Excuse me. は [ex.1] (1) のような状況で [他人への呼びかけ] として使われることがあるが、同じ状況で I’m sorry. や Sorry. が使われることはまれな場合を除いてない<sup>2)</sup>。

### (2) [親しい人への呼びかけ]

自分の方から親しい友人や家族などに質問や要求などを伝えるときには、その相手に呼びかけて相手の意識を自分に向ける必要がある。このとき使われる呼びかけのことばを本稿では [親しい人への呼びかけ] と呼ぶことにする。この [親しい人への呼びかけ] としては一般に I’m sorry. や Sorry. が使われる。

[ex.2] 高校の図書館で勉強している Patty と Tony の会話。Patty と Tony は同じ高校の級友同士。勉強に集中している Tony に Patty が声をかけている。

Patty : (1) “Sorry, Tony. May I ask you about this question, please?”

「ごめんね、トニー。この問題について尋ねてもいいかな」

Tony : (2) “Sure.”

「いいよ」

[ex.2] (1) で Patty が Tony に “Sorry, Tony.” と声をかけて “May I ask you about this question, please?” (この問題について尋ねてもいいかな) という要求を伝えている。この [ex.2] (1) のように [親しい人への呼びかけ] としては I’m sorry. や Sorry. が使われる。この I’m sorry. や Sorry. には相手の邪魔をして申し訳ないという謝罪の気持ちだけでなく相手に対する親しみが含まれている<sup>3)</sup>。

[ex.2] (1) のように親しい友人に軽い質問や要求をする場合には正式な I’m sorry. よりも気軽な Sorry. が多く使われる。ただし、何度も声をかけて繰り返し相手の邪魔をしてしまうときなどには、より深い謝罪の気持ちを込めて I’m sorry. と声をかけることもある。

例外的と言えるが、[親しい人への呼びかけ] として Excuse me. が使われることもある。例えば、[ex.2] (1) で Patty が Tony に “Excuse me, Tony. May I ask you about this question, please?” と言うことも考えられる。この場合には親しい友人に対して礼儀正しい Excuse me. を使うことになるため、他人に対して呼びかけているようなよそよそしい話し方をしていることになる。

### (3) [礼儀としての事前の謝罪]

人混みの中で他の人の前を通らなくてはいけないとき、その相手に Excuse me. と声をかけることがある。この

Excuse me. ように、相手に軽い迷惑や軽い負担を与える前に一つの礼儀として使われる謝罪のことばを本稿では「礼儀としての事前の謝罪」と呼ぶことにする。

[ex.3] A と B が話している途中で A の携帯電話が鳴り出したところ。A は携帯電話に出るために部屋から立ち去ろうとしている。

A : (1) “Excuse me. I’ll be back soon.”  
「すみません。すぐに戻ってきます」

B : (2) “Sure.”  
「わかりました」

[ex.3] (1) のように話している途中で席はずさなくてはならないとき、相手に Excuse me. と声をかけることがある。また、相手と話をしている途中で相手と対立する意見を言おうとするとき、その相手に Excuse me. と言うことがある。これらの Excuse me. は、負担や迷惑となる行為を行う前に使われている点、軽い謝罪の気持ちを伝えている点、一般の大人なら誰でも身につけている礼儀として使われている点で、「礼儀としての事前の謝罪」となる。

#### (4) [礼儀としての事後の謝罪]

思わずせきが出てしまったとき、周囲の人に Excuse me. と言うことがある。この Excuse me. のように、相手に軽い迷惑や軽い負担を与えた後で一つの礼儀として使われる謝罪のことばを本稿では「礼儀としての事後の謝罪」と呼ぶことにする。

「礼儀としての事前の謝罪」は迷惑や負担となる行為をする前に使われ、「礼儀としての事後の謝罪」は迷惑や負担となる行為をした後に使われる<sup>4)</sup>。しかし、誰でもしてしまうような避けがたい行為について軽く謝罪している点、常識や礼儀として一般の大人によって同じ状況で同じように使われる点で、「礼儀としての事前の謝罪」と「礼儀としての事後の謝罪」はよく似ている。

[ex.4] A と B が同じ部屋にいて A がくしゃみをしたときの会話。

A : (1) “Atishoo. Excuse me.”  
「はくしょん。すみません」

B : (2) “Bless you.”  
「お大事に」

[ex.4] (1) のようにくしゃみをしたとき (Atishoo. は日本語の「はくしょん」に当たるくしゃみを表す擬音語)、周囲の人に Excuse me. と言うことがある。また、げっぷやしゃっくりをしてしまったとき、込み合った電車内などで他人に身体に触れてしまったとき、思わぬ言い間違いをしてしまったときなどに、Excuse me. と言うことがある。これらの Excuse me. は、負担や迷惑となる行為をした後

で使われる点、軽い謝罪の気持ちを伝えている点、一般の大人なら誰でも身につけている礼儀として使われている点で、「礼儀としての事後の謝罪」となる。

[ex.3] (1) や [ex.4] (1) のような状況では「礼儀としての事前の謝罪」や「礼儀としての事後の謝罪」として Excuse me. の代わりに I’m sorry. や Sorry. が使われることも多い。Excuse me./ I’m sorry./ Sorry. のうちどれを使うかは、話し手の気持ち、話し手と相手の人間関係、使われる状況次第である。

「礼儀としての事前の謝罪」や「礼儀としての事後の謝罪」を I’m sorry. で表せば、Excuse me. にない内面的な心情が表れて感情的でやわらかな響きが込められる。また、「礼儀としての事前の謝罪」や「礼儀としての事後の謝罪」を略式の Sorry. で表せば I’m sorry. よりもさらにやわらかく気軽な響きが込められる。なお、「礼儀としての事前の謝罪」や「礼儀としての事後の謝罪」を I’m sorry. や Sorry. で表すのは、アメリカ英語よりもイギリス英語に多いと言われる<sup>5)</sup>。

#### (5) [個人的過失に関する軽い謝罪]

個人的な過失や誤りによって軽い迷惑や軽い負担を与えてしまったことについて、親しいつき合いのある相手に謝罪するときがある。このとき使われる謝罪のことばを本稿では「個人的過失に関する軽い謝罪」と呼ぶことにする。

[ex.5] John と Tom は親しい友人同士。John が待ち合せていた場所に遅れてやって来たところ。先に来て待っていた Tom に John がわびている。

John : (1) “Sorry. I’m so late, Tom.”  
「ごめん。だいたい遅れちゃった、トム」

Tom : (2) “That’s OK, John.”  
「大丈夫だよ、ジョン」

John : (3) “I was just about to leave home when I got a call.”

「家を出ようとしたときに、ちょうど電話がかかってきちゃったんだ」

[ex.5] (1) で John は Tom に “Sorry. I’m so late, Tom.” と言っている。これは待ち合わせの時間に遅れたことに関する謝罪のことばである。この Sorry. は個人的な事情によって相手に軽い負担や迷惑になる行為をしてしまったことに関する謝罪の気持ちを表している点で「個人的過失に関する軽い謝罪」になる。

[ex.5] (1) で John は Tom に I’m sorry. を使って “I’m sorry. I’m so late, Tom.” のように言うことも考えられる。この場合には親しい友人に対して正式な I’m sorry. を使っているため、Sorry. を使う場合よりも丁寧に謝罪していることになる。

「個人的過失に関する軽い謝罪」は軽い謝罪の気持ちを表す点で「礼儀としての事前の謝罪」や「礼儀としての事後の謝罪」となる。

後の謝罪]に似ている。しかし、[礼儀としての事前の謝罪]や[礼儀としての事後の謝罪]は席をはずすときやくしゃみをしたときなどに礼儀として誰でも行う謝罪であり、[個人的過失に関する軽い謝罪]は約束の時間に遅れたときなどに個々の事情から個人的に行う謝罪である。

[ex.3] (1) や [ex.4] (1) のように [礼儀としての事前の謝罪] や [礼儀としての事後の謝罪] は Excuse me. で表されることが多いが、[ex.5] (1) のように [個人的過失に関する軽い謝罪] は I'm sorry. や Sorry. で表されることが多い。これは Excuse me. の冷静で客観的な響きが [礼儀としての謝罪] に合っているためであり、I'm sorry. や Sorry. の親しみややわらかさが [個人的な過失に関する謝罪] に合っているためである。

[ex.5] は親しい関係にある John と Tom の会話であり、[ex.5] (1) の Sorry. には親しい友人である John に対する親しみが込められている。したがって、[ex.5] (1) で John が Sorry. の代わりに Excuse me. を使って "Excuse me for being late." と言うことは考えにくい。もし [ex.5] (1) のような状況で個人的過失について謝罪するときに礼儀正しい Excuse me. を使えば、他人行儀でよそよそしい話し方になってしまい、友人への親しみが込められなくなる。

#### (6) [深い謝罪]

自分の言動に関する過ちを全面的に認めて深く謝罪することがある。このとき使われる謝罪のことばを本稿では [深い謝罪] と呼ぶことにする。

[ex.6] 高校の教室での朝の会話。授業が始まった後で一人の高校生が遅れて教室に入ってきて教師に謝罪しているところ。

高校生：<sup>(1)</sup> "Excuse me for being late, sir."

「遅れてすみません、先生」

教師：<sup>(2)</sup> "And would you tell me why you are so late?"

「それで、遅れた理由を教えてくださいか」

高校生：<sup>(3)</sup> "Well, sir, I got up late and missed my bus."

「あのう、先生、寝坊してバスに乗り遅れました」

[ex.5] (1) で生徒は教師に "Excuse me for being late, sir." と言っている。これは授業に遅刻したことに関する謝罪のことばである。この Excuse me. は自分の過ちに対する責任を全面的に認めて深く謝罪している点で [深い謝罪] となる。

[ex.5] (1) のように Excuse me. が [深い謝罪] として使われるのは、学校で生徒が教師にわびるとき、軍隊で部下が上官にわびるときなど、特に明確な上下関係のある組織の中で目下の者が目上の者に対して正式に謝罪の気持ちを表す場合である。

[ex.5] (1) では生徒が教師に Excuse me. の代わりに I'm sorry. を使って "I'm sorry for being late, sir." などと言うこともある。[深い謝罪] を表す Excuse me. は「(どうか) me (私を) excuse (許してください)」と相手からの許しを切実に求めていることになり、[深い謝罪] を表す I'm sorry. は「I (私は) am sorry (心を痛めています)」と自分の感情を伝えながら深い反省や深い後悔の気持ちを示していることになる。ニュアンスは異なるが、深い謝罪の気持ちが込められている点では同じである。このような深い謝罪の気持ちを軽い響きのある Sorry. で表すことはない。

#### (7) [丁寧で強い要求]

例えば、会議を始めようとするときに、その会議の参加者のうちの数人が個人的な話をしていたとする。このとき、会議の進行役がその数人に対して "Excuse me." とだけ声をかけることがある。この Excuse me. には「すみません(が話すのをやめていただけませんか)」という言外の要求が込められる。

この Excuse me. のように表面的には丁寧な謝罪のことばでありながら強い要求が込められていることばを本稿では [丁寧で強い要求] と呼ぶことにする。

[ex.7] 子供と母親の家庭での会話。子供がテレビでサッカーの試合を見て興奮して思わず汚いことばを使ってしまった。それを聞いた母親が子供に注意している。

子供：<sup>(1)</sup> "Oh, this is fucking great!"

「ああ、これはすげえな！」

母親：<sup>(2)</sup> "Excuse me!"

「何ですって！」

子供：<sup>(3)</sup> "...Sorry, Mum."

「・・・ごめんなさい、お母さん」

[ex.7] (1) で子供は "Oh, this is fucking great!" という汚いことばづかいをしている。それを聞いた母親は [ex.7] (2) で "Excuse me." と言って子供に注意を与えている。この Excuse me. には I'm offended by what you say. (あなたの言ったことで気分を害した) と You shouldn't say anything like that. (そのようなことは言うべきではない) という気持ちが言外に込められている。この Excuse me. は謝罪のことばでありながら強い要求を表している点で [丁寧で強い要求] となる。

Excuse me. は本来「me(私を)excuse(許してください)」という相手からの許しを求めることばであり、その言い方自体に相手に何かを求める響きがある。したがって、[ex.7] (1) のように状況や表情などから相手に求めている内容が明らかな場合には、Excuse me. の一言で話し手の要求が伝わることになる。

一方、I'm sorry. は「I(私は) am sorry (心を痛めています)」という内面的な感情を表すことばであり、その

言い方自体には相手に何かを求める響きはない。したがって, [ex.7] (1) のような状況では I'm sorry. や Sorry. が [丁寧で強い要求] として使われることはない。

#### (8) [申し出を断る応答]

相手からの申し出を断るとき謝罪の気持ちを込めて I'm sorry. や Sorry. が使われることがある。この I'm sorry. や Sorry. を本稿では [申し出を断る応答] と呼ぶことにする。

[ex.8] Tom と John は親しい友人同士。Tom が John に友人同士の集まりに来るように誘っているところ。

Tom : (1) "John, would you like to come over to our house tonight? We are going to get together with some of our friends."

「トム, 今晚, うちに来ないか。友達が集まるんだ」

John : (2) "Oh, *sorry*. I wish I could, but I have to get my paper done by tomorrow."

「ああ, ごめん。行けたらいいんだけど, 明日までにレポートを終わりにしなくちゃいけないんだ」

Tom の家に来るように誘われた John は [ex.8] (2) で "Oh, sorry." と Tom に言って, その申し出を断っている。この Sorry. は「パーティーに行きたくない」という拒絶の意味が含まれている点で [申し出を断る応答] になる。

[申し出を断る応答] としては I'm sorry. や Sorry. が使われ, Excuse me. が使われることはない。[申し出を断る応答] として正式な I'm sorry. を使えば丁寧に礼儀正しい応答になり, 略式の Sorry. を使えば親しみを込めた気軽な応答になる。どちらにおいても, 謝罪の気持ちだけでなく I wish I could go, but I can't go. (できることなら行きたいのだけれど, 行くことができない) という話し手の落胆した気持ちが込められるため, 誘ってくれた相手の気持ちに配慮したやさしい応答になる。

#### (9) [同情や悲しみなどの感情表現]

他の人の不幸な出来事や悲しい知らせを聞いたときの同情心, 悲しみ, 後悔, 失望などを I'm sorry. で表すことがある。これらの感情を表す I'm sorry. を本稿では [同情や悲しみなどの感情表現] と呼ぶことにする。

[ex.9] Cathy と Cindy は親しい友人同士。Cindy の祖母が亡くなったことを聞いた Cathy が悲しみとお悔やみの気持ちを Cindy に伝えている。

Cathy : (1) "Cindy, I've heard about your grandmother. *I'm deeply sorry*."

「シンディ, おばあ様のこと, 聞いたわ。お悔やみ申し上げるわ」

Cindy : (2) "Thank you so much, Cathy, but I feel all right now."

「どうもありがとう, キャシー。でも, もう大丈夫よ」

Cindy の祖母が亡くなったことを知った Cathy が [ex.9] (1) で "I'm deeply sorry." と Cindy に言っている。この I'm deeply sorry. は相手の祖母が亡くなった悲しみと相手に対する同情心が込められている点で [同情や悲しみなどの感情表現] になる。

#### (10) [相手への強い非難]

後悔を込めて相手を強く非難するとき I'm sorry. が使われることがある。この I'm sorry. を本稿では [相手への強い非難] と呼ぶことにする。

[ex.10] Kim と Pete は恋人同士。互いに感情的になって口論しているところ。

Kim : (1) "*I'm sorry* I ever met you!"

「あなたに会わなければよかったわ」

Pete : (2) "What did you say!"

「何てことを言うんだ!」

Kim : (3) "I just told you what I think."

「思っていることを言っただけよ」

[ex.10] (1) で Kim は Pete と言い争いになって "I'm sorry I ever met you!" と言っている。この I'm sorry. は I wish I'd never met you. (あなたに会わなければよかった) という後悔が込められている点で [相手への強い非難] になる。

略式の Sorry. は [同情や悲しみなどの感情表現] や [相手への強い非難] として使われることはない。これは [同情や悲しみなどの感情表現] や [相手への強い非難] の深刻な感情が Sorry. の軽い響き合わないためである。

また, Excuse me. は [申し出を断る応答], [同情や悲しみなどの感情表現], [相手への強い非難] として使われることはない。これは Excuse me. に落胆や同情や悲しみなどの気持ちに合わない客観的で冷静な響きがあるためである。

### 3. 「もう一度言ってもらえませんか」: I beg your pardon?/ Pardon?/ Pardon me?/ Excuse me?/ Sorry? と Would you say that again?/ What did you say? の比較

#### (1) I beg your pardon?/ Pardon?/ Pardon me?/ Excuse me?/ Sorry? に関して

I beg your pardon? は相手の言ったことが聞き取れずもう一度同じことを言ってもらおうとするときに使われる。この場合, I beg your pardon? には次の3つの含意される。

[ref.1] I beg your pardon? に込められる意味

- (a) 「すみません」[謝罪]
- (b) 「あなたの言ったことがわかりませんでした」[事実]
- (c) 「もう一度言ってくれませんか」[要求]

肯定文として語尾を上げずに発音される I beg your pardon. は「I(私は) your pardon(あなたの許しを) beg(求めています)」という意味があり、「すみません」という謝罪のことばとして使われることがある<sup>6)</sup>。これと同じように、疑問文として語尾を上げて発音される I beg your pardon? にも (a) 「すみません」という [謝罪] が含まれる。

また、I beg your pardon? は何らかの情報を伝えようとした相手の発話の直後に使われる。相手のことばに応じるように I beg your pardon? という謝罪のことばが発せられるため、そこには (b) 「(すみませんが,) あなたの言ったことがわかりませんでした」という [事実] が伝わることになる。

さらに、I beg your pardon? は他の表現を添えずにその一言だけで使われる。そのため、I beg your pardon (but . . .) ? に「すみませんが . . . ?」という余韻が残り、その場の状況から間接的に (c) 「それをもう一度言ってくれませんか」という [要求] が相手に伝わることになる。

以上の3つの気持ちを合わせると、I beg your pardon? には「あなたの言うことを聞き取ることが出来ませんでした。すみませんが、もう一度言ってくれませんか」というニュアンスがあることになる。そのため、I beg your pardon? は表面上謝罪のことばではあるが、自分が相手の言うことを理解できなかったという事実ともう一度同じことばを繰り返して言ってもらいたい要求を婉曲的に表すことばになる。

I beg your pardon? の類語に Pardon?/ Pardon me?/ Excuse me?/ Sorry? がある。この4つの表現は I beg your pardon? と同じように、相手の発話を繰り返して言ってもらおうと思ったときに「もう一度言ってくれませんか」という意味で使われる。また、この4つの表現は [ref.1] の3つの気持ちを含めて使われる。したがって、I beg your pardon? と同様に謝罪の気持ちを表しながら相手への要求を婉曲的に表すことばになる。

次の [ref.2] に I beg your pardon?/ Pardon?/ Pardon me?/ Excuse me?/ Sorry? のニュアンスの違いをまとめる。

[ref.2] 相手の発話を丁寧に聞き返す表現

- ① I beg your pardon?
  - ② Pardon? や③ Pardon me? よりも丁寧な表現。目上の者や親しいつき合いのない人に対して使われることが多い。
- ② Pardon?
  - I beg your pardon? の略。イギリス英語で多く使われる。

③ Pardon me?

② Pardon? と同じニュアンス。アメリカ英語で多く使われる。

④ Excuse me?

Could you excuse me, please? (どうか私を許してくださいませんか)」というニュアンス。文末を挙げて発音する。① I beg your pardon?/ ② Pardon?/ ③ Pardon me? と同じように丁寧な響きはあるが、より一般的でやわらかい。

⑤ Sorry?

文末を挙げて発音する。「すみませんが . . . ?」というニュアンス。④ Excuse me? と同じように丁寧な響きがあるが、略語であるため④ Excuse me? よりもくだけた響きがある。また、Sorry? と同じニュアンスでより丁寧な I'm sorry? が使われることもあるが、一般には Sorry? の方が多く使われる。

[ex.11] あるレストランでの会話。ウェイトレスが食事をしている客のところへやってきて声をかけているところ。

ウェイトレス: (1) "Is everything all right, sir?"

「お食事はいかがですか、お客さま」

客: (2) "Pardon?"

「何ですか」

ウェイトレス: (3) "Is everything all right?"

「お食事はいかがですか」

客: (4) "Oh, just fine. Thank you."

「ああ、とてもおいしいですよ。ありがとう」

ウェイトレスの言ったことばが聞き取れなかったため、[ex.11] (2) で客は "Pardon?" と言ってもう一度同じことを言ってもらうように求めている。この一言には「すみません」という謝罪、「あなたの言ったことがわかりませんでした」という事実、「もう一度言ってくれませんか」という要求が含まれている。そのため、ここで客は「聞き取れませんでした。すみませんが、もう一度言ってくれませんか」という意味の婉曲的で礼儀正しいことばを使いしていることになる。

英語を母語とする者でも、相手の言うことを聞き取ることができなかったとき、What was that? (それは何ですか) や What? (何?) と聞き返すことがある。ただし、これは基本的に相手が親しい友人や家族の場合だけである。when/ where/ who/ what/ how などの疑問詞から始まる質問には直接的で相手を問い詰めるようなきつい響きがあるため、一般に相手が親しい友人や家族でない限り What was that? や What? を使うことはない。もし What was that? や What? を他人に対して使えば、無礼で侮辱的な話し方をしているように聞こえることにもなる。

例えば、[ex.11] (2) で客がウェイトレスに What? や What was that? と言えば、「何?」や「何なの?」のよう

な不愛想で横柄な応答をしていることになり、客に仕える立場にあるウェイトレスに対して見下した話し方をすることになる。英語を母語とする者で礼儀をわきまえた者なら [ex.11] (2) で What? や What was that? のような話し方をしないのが一般である。

### (2) What did you say?/ Would you say that again? に関して

What did you say? や Would you say that again? をそのまま日本語に訳せば、「何と言ったのですか」や「もう一度言っていたいただけますか」ともなるが、この字句通りの意味で使われることは多くない。これは一つには相手にもう一度同じことを言ってもらいたいと思ったときには Pardon? や Pardon me? などの間接的で控えめな話し方をする習慣があるためである。また、もう一つには、What did you say? や Would you say that again? という話し方をすれば What was that? や What? などと同じように直接的できつい話し方をしているように聞こえるためである。

What did you say? や Would you say that again? は次の [ex.12] や [ex.13] のように、相手に警告や注意を与えるときに使われることが多い。

[ex.12] 子供と母親の会話。部屋の中を歩いていた子供が自分の不注意から椅子に自分の足をぶつけてしまい、痛い思いをしたところ。

子供：<sup>(1)</sup> “Ouch! Fucking chair!”

「痛い！畜生！」

母親：<sup>(2)</sup> “*What did you say?*”

「なんて言ったの？」

子供：<sup>(3)</sup> “・・・”

「・・・」

母親：<sup>(4)</sup> “Don’t use such language again! All right?”

「そんなことばづかいを二度としないで！わかった？」

子供：<sup>(5)</sup> “OK, Mum.”

「はい、お母さん」

[ex.12] (1) で椅子に足をぶつけて痛い思いをした子供が怒りを込めて “Ouch! Fuck chair!” と言っている。この fuck は瞬間的な強い感情を表すことばだが、fuck は子供が使ってはいけない禁句である。そこで [ex.12] (2) で母親は子供に “What did you say?” と言って、子供にそのようなことばを使わないように注意している。

[ex.12] (2) の “What did you say?” を字句通りに解せば「you (あなたは) what (何を) did say (言いましたか)」となる。しかし、what などの疑問詞から始まる質問には直接的できつい響きがあるため、この表現には「なんという話し方をするのか」という驚きや「そのようなことを言っ

[ex.13] ある会社で会議を開いているときの会話。提案された企画について社員と上司の意見が対立している。

社員：<sup>(1)</sup> “We’re wasting our time. I don’t think this project will work.”

「時間の浪費ですよ。この企画はうまくいかないと思います」

上司：<sup>(2)</sup> “*Would you say that again, please?* How much have we spent on it so far?”

「もう一度言ってみろ。これまでこの企画にいくら使ったと思ってるんだ」

[ex.13] で社員は企画がうまくいきそうにないという思いを告げている。これに対して上司は [ex.13] (2) で “Would you say that again, please?” と言っている。

この “Would you say that again, please?” を字句通りに訳せば、「that (それを) please (どうか) again (もう一度) say (言って) Would you? (くれませんか)」となる。you (相手) を主語にして say again (もう一度言う) という動作をそのまま表しているため、この言い方には直接的な響きがある。さらに、Would you ~, please? (どうか~してください) という表面的には丁寧な言い方をしているため、皮肉として逆にきつい響きが込められる。

したがって、[ex.13] (2) のような状況では Would you say that again, please? が Don’t say that again. (二度とそれを言うな) という強い警告や非難を表すことになる。この場合、“Would · you · say · that · again · please?” のように一語一語を区切ってゆっくり発音されるとより強い響きが込められる。

また、[ex.12] (2) や [ex.13] (2) のような状況では What did you say? や Would you say that again? の代わりに I beg your pardon?/ Pardon?/ Excuse me?/ Sorry? を使って間接的に相手に警告や注意を与えることもある。この場合には「すみませんが (もう一度言ってくれませんか)」という丁寧な言い方で警告や注意が伝えられるため、直接的な質問となる What did you say? や Would you say that again? よりも皮肉のきいた感情的で強い響きが込められることになる<sup>7)</sup>。

## 4. 終わりに

第2章では10の状況において Excuse me./ I’m sorry./ Sorry. を比較した。それぞれの状況における Excuse me./ I’m sorry./ Sorry. の使用の可否を次の [ref.3] にまとめる。[ref.3] において○はそれぞれの状況において使われること、△はそれぞれの状況において例外的な場合を除いて一般に使われないこと、—はそれぞれの状況において一般に使われないことを示している。

Excuse me. は客観的で礼儀正しい謝罪のことばである。したがって、軽い謝罪の気持ちを込めて [他人への呼びかけ]、[礼儀としての事前の謝罪]、[礼儀としての事後の謝

[ref.3] Excuse me. と I'm sorry. と Sorry. の使用の可否	Excuse me.	I'm sorry.	Sorry.
(1) [他人への呼びかけ] (⇒ [ex.1])	○	△	△
(2) [親しい人への呼びかけ] (⇒ [ex.2])	△	○	○
(3) [礼儀としての事前の謝罪] (⇒ [ex.3])	○	○	○
(4) [礼儀としての事後の謝罪] (⇒ [ex.4])	○	○	○
(5) [個人的過失に関する軽い謝罪] (⇒ [ex.5])	△	○	○
(6) [深い謝罪] (⇒ [ex.6])	○	○	—
(7) [丁寧で強い要求] (⇒ [ex.7])	○	—	—
(8) [申し出を断る応答] (⇒ [ex.8])	—	○	○
(9) [同情や悲しみなどの感情表現] (⇒ [ex.9])	—	○	—
(10) [相手への強い非難] (⇒ [ex.10])	—	○	—

罪]として使われることが多い。ただし、[深い謝罪]として使われる場合には深刻な響きが込められ、[丁寧で強い要求]として使われる場合には謝罪からかなり離れた気持ちを表すことにもなる。

I'm sorry. は内面的で感情的な謝罪のことばである。したがって、Excuse me. と異なって [親しい人への呼びかけ]、[個人的過失に関する軽い謝罪]、[申し出を断る応答]、[同情や悲しみなどの感情表現]、[相手への強い非難] など謝罪以外の様々な気持ちを表す。一方、I'm sorry. は Excuse me. と同じように [礼儀としての事前の謝罪]、[礼儀としての事後の謝罪]、[深い謝罪] としても使われることもある。この場合には Excuse me. にない親しみや主観的な響きが込められる。

I'm sorry. の略式表現である Sorry. は I'm sorry. と同じように [親しい人への呼びかけ]、[礼儀としての事前の謝罪]、[礼儀としての事後の謝罪]、[個人的過失に関する軽い謝罪]、[申し出を断る応答] として使われる。ただし、Sorry. は I'm sorry. よりも軽い響きがあるため、I'm sorry. とは異なって [深い謝罪]、[同情や悲しみなどの感情表現]、[相手への強い非難] として深刻な気持ちを表すことはない。

第 3 章 では I beg your pardon?/ Pardon?/ Pardon me?/ Excuse me?/ Sorry? と What did you say? や Would you say that again? の相違について論じた。

I beg your pardon?/ Pardon?/ Pardon me?/ Excuse me?/ Sorry? はいずれも「すみません」、「(あなたの言ったことが)わかりませんでした」、「もう一度言ってくださいませんか」という 3 つの意味を含む婉曲で礼儀正しいことばである。したがって、相手の言ったことがわからずもう一度言ってもらうように頼むときには、I beg your pardon?/ Pardon?/ Pardon me?/ Excuse me?/ Sorry? が使われることが多い。

Would you say that again? や What did you say? は表面上「何と言ったのですか」や「もう一度言っていただけますか」という意味だが、say (言う) という行動を you (相手) に求める直接的な言い方である。そのため、相手の言っ

たことがわからずもう一度言ってくれるように頼むときに使われるよりも、相手に警告や注意を与えるときに使われることが多い。

また、I beg your pardon?/ Pardon?/ Pardon me?/ Excuse me?/ Sorry? は相手に警告や注意を与えるときに使われることもある。この場合には「すみませんが・・・?」という謝罪のことばで警告や注意が皮肉として相手に伝えられるため、What did you say? や Would you say that again? よりもさらに感情的で強い言い方になる。

#### 注 釈

- 『日本獣医生命科学大学研究報告』の No.58 から No.62 に掲載されている「口語英語研究 (1)」から「口語英語研究 (5)」を参照。
- まれではあるが、[他人への呼びかけ]として I'm sorry. や Sorry. が使われることもある。例えば、街中の路上で道路工事作業をしている人に声をかけて道を尋ねるときなら、“I'm sorry to interrupt you.” や “Sorry to interrupt you.” などと呼びかけることがある。このような状況で I'm sorry. や Sorry. が使われるのは、話し手が声をかけることで相手の行っている作業を中断させてしまうことが明らかなためである。この場合の I'm sorry. や Sorry. には「お邪魔して申し訳ありません」という謝罪の気持ちが込められる。
- [ex.2] (1) の Sorry. は親しみや遠慮を込めて使われる Hey. という呼びかけによく似ている。ただし、Sorry. には Hey. にない謝罪の気持ちが含まれる一方で、Hey. には Sorry. にない親しい友人に対する甘えが含まれる。『日本獣医生命科学大学研究報告 No.59』の「口語英語研究 (2)」第 2 章 (2)「hey と hi/ hello の比較」を参照。
- Excuse me. は [他人への呼びかけ] や [事前の軽い謝罪] として使われることが多い。そのため、Excuse me. は「迷惑や負担を与える前の謝罪」として使われ、I'm sorry. や Sorry. が「迷惑や負担を与えた後の謝罪」として使われると説明されること

もある。しかし、このような説明だけを根拠として Excuse me. と I'm sorry./ Sorry. を使い分けることはできるわけではない。なぜなら Excuse me. が「迷惑や負担を与えた後の謝罪」になることもあれば、I'm sorry. や Sorry. が「迷惑や負担を与える前の謝罪」になることもあるからである。例えば, [ex.4] (1) や [ex.6] (1) のような状況で Excuse me. が使われることがあるが、この場合には Excuse me. が「迷惑や負担を与えた後の謝罪」になる。また, [ex.2] (1) のような状況で I'm sorry. や Sorry. が使われることがあるが、この場合には I'm sorry. や Sorry. が「迷惑や負担を与える前の謝罪」になる。

- 5) 『ジーニアス英和大辞典』(小西友七編(1988), 大修館, 東京, p.1219.) に「話し中にせき出たり人にぶつかったなどの場合, 《米》では (I'm sorry. よりも) Excuse me. の方が普通」とある。
- 6) *Pardon me* for asking, but does this train go to Liverpool? (お尋ねして申し訳ないのですが、この列車はリバプール行きですか) のように, pardon を含む表現が謝罪のことばとして使われることがある。ただし、このような表現はかたい響きがあるため、現代英語で使われることは多くない。pardon を含む表現のうち現代の口語英語で一般的に多く

使われる表現は, I beg your pardon?/ Pardon?/ Pardon me? などの慣用表現だけである。

- 7) 謝罪のことばで要求を伝えている点や丁寧な言い方を使っている点で、相手に警告や注意を与える I beg your pardon?/ Pardon?/ Excuse me?/ Sorry? は [ex.7] (2) の Excuse me. に似ている。ただし、肯定文である Excuse me. には冷静な響きがあり、疑問文である I beg your pardon?/ Pardon?/ Excuse me?/ Sorry? には驚きが含まれるため感情的でより強い響きがある。

#### 参 考 文 献

- ・『英文法シリーズ』(1976), 研究社
- ・『英語語法大辞典』(1966), 大修館
- ・『新英文法辞典』(1970), 三省堂
- ・『現代英文法辞典』(1992), 三省堂
- ・*Longman Dictionary of American English* (1983), Pearson Education Limited
- ・*Collins Cobuild English Language Dictionary* (1987), Collins Sons & Co Ltd
- ・*Oxford Advanced Learner's Dictionary* (2000), Oxford University Press

## Study of Colloquial English (6) : Concerning Expressions Showing Apology

Mitsuru KIDO\* and Stuart J. SANDERSON\*\*

\*Division of the English Language, Nippon Veterinary and Life Science University

\*\*Sanderson English School

### Abstract

This article is a study on colloquial English expressions which show the speaker's apology: such as Excuse me./ I'm sorry./ Sorry. and I beg your pardon?/ Pardon?/ Pardon me?/ Excuse me?/ Sorry? As in Studies of Colloquial English (1) (2) (3) (4) and (5), this study, based on discussion between native speakers of English and Japanese, analyzes in what situations those colloquial expressions above are used<sup>1)</sup>.

**Key words** : Excuse me./ I'm sorry./ Pardon?

Bull. Nippon Vet. Life Sci. Univ., **63**, 89-97, 2014.